

(海外) (国内) 出張報告書 (学生用)

2015 年 06 月 15 日提出

氏名	平野 港
所属	獣医学研究科 公衆衛生学教室
学年	D2
出張先	長崎大学 熱帯医学研究所
出張期間	06 月 7~9 日
目的	熱帯医学研究所の見学、長崎大学 LP との交流

活動内容 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

6 月の 7 から 9 日にかけて、リーディングプログラム間の交流の一環として「長崎大学 熱帯医学研究所」を訪問し、長崎大学にて 2013 年度より採択されている熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラムに所属する学生との交流を行った。

熱帯医学研究所は、昭和 17 年に長崎医科大学付属東亜風土病研究所として開設され、その後昭和 42 年に 長崎大学附置熱帯医学研究所となった。日本国内で唯一の熱帯病をターゲットとした長い歴史を持つ研究教育機関である。私達の所属する獣医学研究科は「動物と人の接触」の観点から人獣共通感染症を主要なターゲットの一つとしているが、熱帯医学研究所は医学研究科の機関ということもあり、特に熱帯・亜熱帯地域の人の感染症をターゲットとしている。しかし、昨今の世界的に流行する感染症の多くは動物を起源としてもち、人—動物双方のサイドから対策をおこなうことは極めて重要である。そのため、長崎大学と北海道大学間では感染症制御の観点から深い交流があり、COE プログラム、GCOE プログラムなどのリーディングプログラム以前の教育研究プログラムの時代から、世界の感染症の制御を目的として交流を行ってきた。

今回の訪問の目的は大きく分けて次の 3 つであった。1 つ目が長崎大学のリーディングプログラムの英語授業であるコミュニケーションスキル演習への参加であり、2 つ目が熱帯医学研究所の病原体解析部門に属する原虫学分野・ウイルス学分野・新興感染症分野の研究設備見学。そして 3 つ目が研究内容発表、およびディスカッションであった。コミュニケーションスキル演習は英語でのディスカッションおよび社会との交流を主目的とする授業であり、長崎大学では地域の小学校での手洗い教室なども開催している。1~4 年次までほとんどすべての大学院生が参加し、かなり大人数での授業となっている。長崎大学のリーディングプログラムの大学院生は 7 割以上が外国籍という構成であった。母国語が英語ではないアジア出身の方が多く見られたが、極めて英語のレベルが高く、活発なディスカッションが行われていた。今回は、私達、北海道大学の学生が参加したこともあり、お互いの自己紹介と将来のキャリアパスについてが中心であった。

次に、熱帯医学研究所の病態解析部のラボ見学を行った。今回の見学では、長崎大学大学院生の嶋田さん、原虫学分野の金子教授、ウイルス学分野の早坂助教、及び、新興感染症学分野の浦田助教に案内をしていただき、ラボ内の見学を行った。実験設備としては獣医学研究科と基本的には同一の設備であり、基本的な生物学的解析に必要な機器は揃っていた。熱帯医学研究所の施設の特徴としては以下の3点が挙げられた。1つ目が熱帯研内にニコンと共同にてイメージングセンターを現在設立中であり、超解像顕微鏡などの設備が充実していること、2つ目は実験動物施設内に大規模な Bio Safety Level 3 (BSL3) 感染実験施設があり、3つ目は BSL3 施設内に、小動物撮影が可能な PET/SPECT 撮影装置があることである。特に PET/SPECT は放射線ラベルした物質を投与することで、生体内における代謝動態をライブでイメージング出来る設備であり、炎症の可視化、病原体の動態の検索などに利用可能な設備である。ラボの見学後は、長崎大学熱研ミュージアムの見学を行った。

施設見学の後に、双方の交流企画の一環として、長崎大学より2名、北海道大学より4名の代表者が10分間の研究内容報告を行い、ディスカッションを行った。長崎大学の大学院生は大部分が外国籍ということもあり、発表およびディスカッションはすべて英語にて行われた。この形式は、基本的には北海道大学にて行われているリーディングプログレス（学生主体の研究討論会）と同様の形式であり、比較的スムーズな発表ができた。今回の発表はお互いほとんど初対面であったが、互いに感染症に関するバックグラウンドが共通していたためか、活発に討議を行うことができた。特に、浦田助教からは研究手法に関して有意義なアドバイスを頂くことができた。発表後は付属の食堂にて懇親会を行った。

以前より研究を通して長崎大学の方々とは親しくさせて頂いていたが、実際に訪問するのは初めてであった。外国籍の方も多く、非常にオープンな印象の施設であり、感染症特化の研究施設ということで研究内容についてもかなり掘り下げたディスカッションを行うことができた。案内をして頂いた金子教授および嶋田さんにはこの場を借りて御礼申し上げたいと思います。



写真 1: コミュニケーションスキル演習



写真 2: PET/SPECT 設備の説明風景



写真 3: 熱研ミュージアムの見学

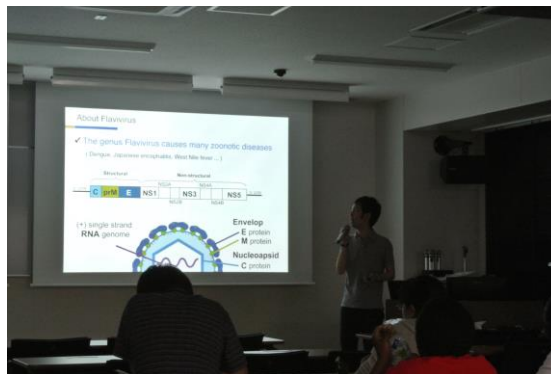


写真 4: 研究内容報告会

指導教員確認欄	所属・職・氏名 : 公衆衛生学教室 教授 荻和宏明 印
---------	--

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp